

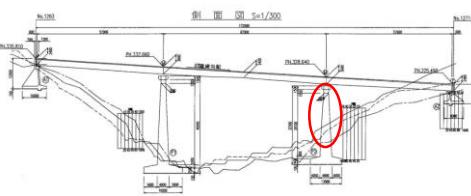
活用事例

- 橋長：172.0m、幅員：9.7m
- 橋梁形式：3径間連続鋼非合成鉄桁橋
- 対象部位・部材：P2橋脚（柱部）
- 性能力タログ（又はNETIS）番号
:BR010015-V0120
- ☆[性能力タログへのリンク](#)

橋梁・支援技術



位置図及び側面図



○点検支援技術の効果

- ・点検員の高所作業がなくなり、安全性が大幅に向上。
- ・点検漏れや見落としを防止。
- ・損傷のスケッチやメモなどの現地作業が低減。

○近接目視と同等と判断した理由

- ・最小ひびわれ幅の検出精度が0.05mm。
- ・事前調査結果にて、主要部材に顕著な損傷が発生していない。
- ・第三者被害予防措置対象外であり、叩き落としの必要がない。

○使用時の留意事項

- ・自律制御を行うため、特異点の自動検出が困難な水上等での使用には、人為的に特異物を設置するが必要あり。
- ・強風や降雨時は点検不可。
- ・深さや厚み等の立体計測は不可。



写真-1 点検状況

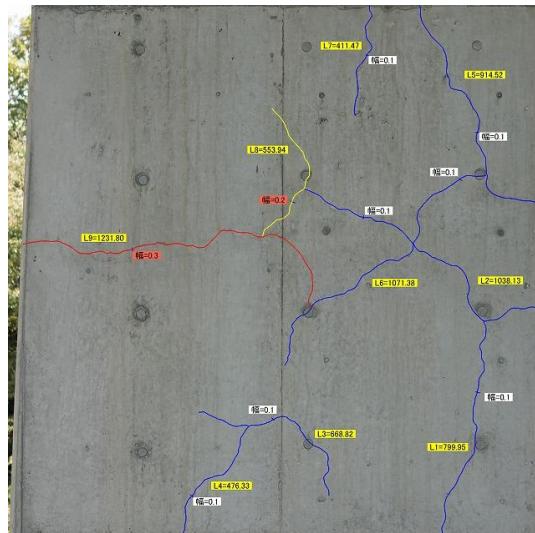


写真-2 損傷写真

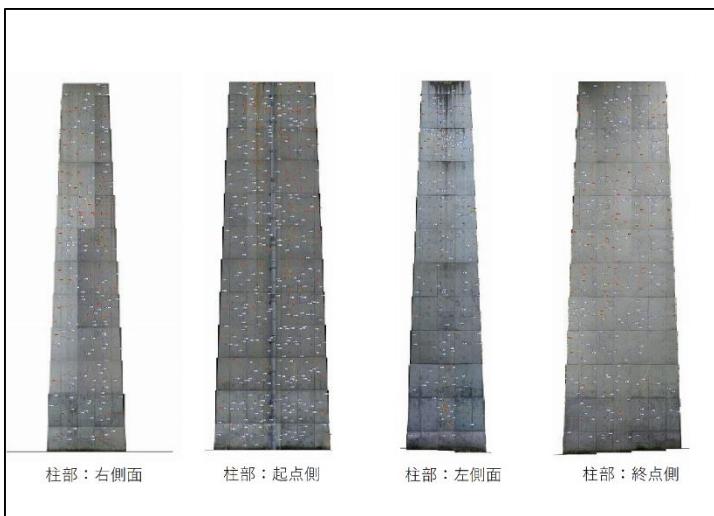


写真-3 オルソ画像+損傷画像



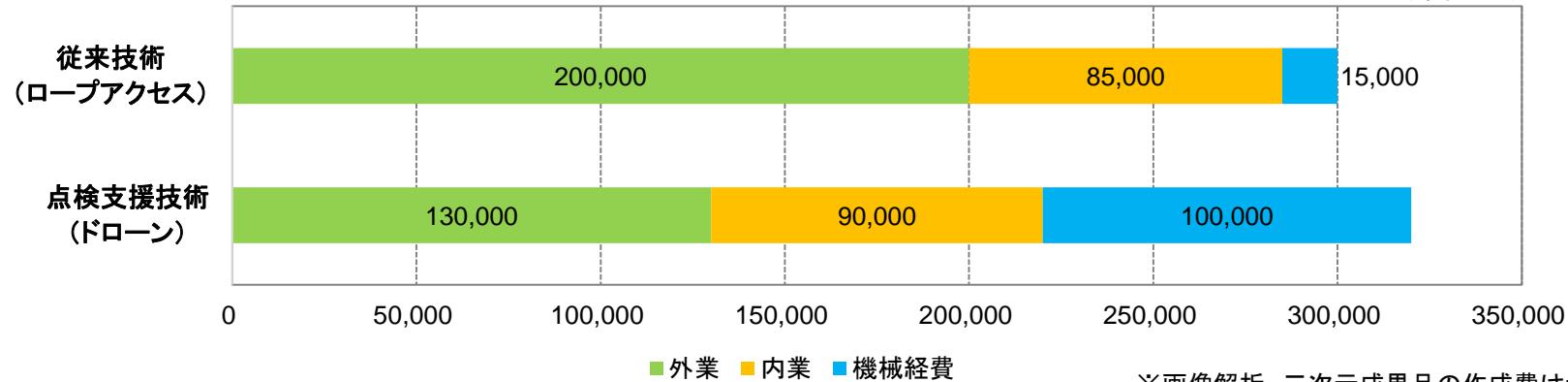
写真-4 三次元モデル

コスト比較

比較条件: 橋脚柱部1基(橋脚高25m)を点検した場合のコスト比較。

評価: 従来技術(ロープアクセス)と比べ、同程度である。

(単位:円)



項目	従来技術	点検支援技術
外業	ロープアクセスによる近接目視	ドローンによる画像撮影
内業	調書作成	調書作成
機械経費	ロープ資材	ドローン機体
合計金額	300千円	320千円
工程	3日(外業1日)	3日(外業1日)

○諸条件

点検面積: 400m²

橋脚高: 25m(GL～橋脚天端)

天候: 晴れ

対象部位・部材: P2橋脚(柱部)

点検時間: 9:00～17:00

第三者被害予防措置: 無し

積算: 業者見積もり(R2.9)

前回の健全度: I判定(P2橋脚)

その他: 画像解析及び3次元モデルを併せて実施